



# 琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	平成 2 7 年度トータル支援活動について
Author(s)	浦崎, 武
Citation	琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 = BULLETIN OF PRACTICE CENTER FOR EDUCATION OF CHILD DEVELOPMENTAL SUPPORT(7): 73-75
Issue Date	2016-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/34386">http://hdl.handle.net/20.500.12000/34386</a>
Rights	

## 平成27年度 トータル支援活動について

浦崎 武<sup>1)</sup>

### Fiscal Year 2015 The Total Support Project

Takeshi URASAKI

琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センターでは平成18年10月より実践トータル支援活動がスタートし本年度で9年が過ぎた。来年度の11月を迎えると10年間、取り組みが続けられたことになる。3月には海に関する支援企画・教育実践を中心とした「トータル支援」に関する最初の著書、来年度8月にはトータル支援活動の10年間をまとめた著書が出版される。今までの取り組みの評価と今後のさらなる発展に向けてのビジョンが必要とされる。

「トータル支援教室」を中心的な事業として、今まで9年半で、147回の支援企画を実践してきた。「トータル支援教室」は地域の子どもたちが支援を受け、保護者の子育てを応援し、現職教員、保育士、支援員、関連領域の専門家のリカレント教育の機会を提供し、大学院生や学生に実践教育の場を与え、行政などと協力して地域に貢献し、実践研究を深める支援を行っていることで、「トータル支援教室」と呼んでいる。また、子どもたちとの関わりを通して子どもの特性を多角的に捉え、支援教育の多様性を追求し総合的包括的に支援していく上でも「トータル支援教室」と呼んでいる。この教室は個別支援、集団支援、学校および教育機関との連携支援、子育て支援という4つの柱から成り立っている。活動への参加者は子どもたちを支援することにより子どもたちから発達支援、教育実践を学ぶ。その活動の終了後、子どもたちとの関わりによるエピソードを具体的にとりあげ、全体ミーティングを行い、そして、その後、子どもの担当者ごとに行う個別ミーティングを通して子どもたちの理解および支援のあり方を深めている。

当センターでは平成21年度に「特別研究員制度」を開始しその制度を活用した特別研究員の活躍によりセンター活動をより充実させてきた。特に平成23年度よりセンターの特別研究員（武田喜乃恵）が常駐することができたこともあり、充実した地域貢献活動、教育および研究活動を行うことができるようになった。本年度まで崎濱朋子（読谷村立古堅小学校校長）、瀬底正栄（浦添市教育委員会指導主事）、武田喜乃恵（発達支援教育実践センター相談員）、金城明美（沖縄市立泡瀬小学校教頭）、大城麻紀子（沖縄県立高等特別支援学校教頭）、瀬底絵里子（育児休業中）、久志峰之（那覇少年鑑別所）、本間七瀬（石垣市立新川小学校教諭）、運道恵理子（石垣市立新川小学校教諭）、入嵩西清幸（石垣市立大浜中学校教頭）、富盛さゆり（KBC学園エルケア医療保育専門学校）の11人の特別研究員が子どもたちへの支援をするとともに子どもたちから学び、実践的な研究を行ってきた。

定期的なトータル支援活動として「トータル支援教室（個別及び集団支援）」を月二回、教員・学生および発達支援教育に関する専門家を交えた「実践事例研究会」を月1回、また教員や保護者を対象にした「相談支援」、子どもたちに継続的なサポートが必要であれば定期的に支援を行う「個別支援」等を行ってきた。大学を拠点とする定期的なトータル支援活動は様々な事業の基盤をなす取り組みとなっており具体的な地域協働活動のネットワークの要となっている。

センターの支援活動は10年目に入り、その支援論について「自閉症スペクトラム障害児への関係発達の支援による集団支援と教育実践—「トータル支援教室」の10年—」をまとめた著書が出版される。

1) Faculty of Education, Uni. of the Ryukyus

タル支援」を通した「過ごす力」と「向かう力」を育む支援論—（浦崎武・武田喜乃恵）、「学齢期の自閉症スペクトラム障害児への関係発達の支援と「自立活動」による教育実践—「ともに楽しむ」体験と「向かう力—受けとめる力」を育む「トータル支援」—（浦崎武・武田喜乃恵）」と題して紀要にまとめた。さらにその当センターおよび学校における共同研究実践について「集団参加に苦手さのある自閉症スペクトラム障害児への支援—小学校の特別支援学級における自立活動の授業実践から—（武田喜乃恵）」、「多動性のある児童の＜向かう力＞を受けとめる支援の実践（瀬底正栄・武田喜乃恵・浦崎武）」と題してまとめた。

また、地域拠点型の八重山の地域スタッフが中心となった「トータル支援教室 in 八重山」は5年目を迎えた。八重山教育事務所を中心とした石垣市教育委員会、竹富町教育委員会、与那国町教育委員会の実施体制も整い、支援プログラムも軌道に乗り地域内の発信を公開講座等で行ってきたが、より一層の発信が必要である。八重山地域での取り組みの成果は「高機能自閉症をもつ小学生男児の6年間の変容過程—トータル支援と学校における重要な他者との関係性の変容—（本間七瀬・武田喜乃恵・浦崎武）」として紀要にまとめた。本年度より宮古島でトータル支援教室を開催することができた。次年度以降も離島での支援教室をより一層、活性化させたい。

一昨年度まで行ってきた国頭教育事務所との共催による金武町で実施してきた1日キャンプは本年度から琉球大学を会場とした取り組みとなり中頭教育事務所との共催により中北部地域連携活動へと発展して3年目を迎えた。積極的に離島・へき地に出向き、地域の土壌に触れながら子どもたちや発達支援教育に携わる先生や支援者と関わり、ともに学び合うことができた。

最終年度となった教育学部への沖縄県委託事業『学力向上先進地域育成事業：沖縄県の子どもの学びと育ちを支えるプロジェクト』において、「気になる子どもたちへの支援教育と教員への実践力養成システムの構築—「トータル支援教室」の学校支援の展開と＜向かう力—受けとめる力＞を育む教育実践—」と題して共同による実践研究を行ってきた。本センターの特別研究員である崎濱朋子氏が前任校である沖縄市立比屋根小学校に赴任中に共同実践研究を開始してから3年間が過ぎた。その成果は3月に行われた教育学部の報告会においてポスター発表をするとともに報告書をまとめた。さらに紀要『子どもと教職員の＜向

かう力＞と＜受け止める力＞が生まれる教育実践—学校のチャンスを活かしたともに楽しむ取り組みを通して—（崎濱朋子・末吉麻紀・武田喜乃恵・浦崎武）」と題しまとめることができた。

今年度、事業の締め括りとなった「海プロジェクト（日本財団）」では、一昨年度および昨年度、東京大学主催による第1回、第2回全国海洋教育サミットで実践研究の報告を行った。実践を高く評価され、その取り組みの成果をまとめて欲しいと著書の執筆依頼を受けた。また、本年度も含めた今までの取り組みについて報告書にまとめることができた。さらに、トータル支援事業の一貫として海企画に関する著書を3月に出版するとともに、その成果を紀要「トータル支援教室の取り組みを学校で実践するために—アクティブラーニングとしての「自立活動」の試み—（大城麻紀子・武田喜乃恵・浦崎武）」にまとめた。

大学中期計画実現のための「附属学校におけるインクルーシブ教育システム構築モデル事業と発達障害児・者の支援・教育に関わる学生・教員の実践力養成機能の充実と地域との協働支援体制の整備」と題する事業を行った。特に中期計画実現へ向けて、月1回の校内委員会および巡回相談を定着させ、附属小学校との連携を図り、「教育支援」、「相談支援」への一層の充実をめざしてきた。また、トータル支援活動が地域支援へと展開するように宮古地域の宮古教育事務所、宮古福祉保健所、宮古島市、宮古島市教育委員会、多良間村教育委員会との連携による研修会、1月には子どもたちを集めた支援教室、「トータル支援教室 IN 宮古」を実施するまでになった。今後も離島との連携を図り、より継続的に発展させていく予定である。本年度6月と7月に琉球大学で実施した公開講座や12月に実施した公開セミナーを石垣、宮古、久米島等の離島大学サテライトへと発信することができた。当センターの地域貢献への取り組みは県内、県外に認知され期待の高まりとともに、より一層の努力が求められていることを痛感した。

本紀要において当センターの本年度事業の実践研究の成果をまとめた。センターおよび八重山で実施してきたトータル支援教室における支援姿勢を「自閉症スペクトラム障害児への関係発達の支援による集団支援と教育実践—「トータル支援」を通した「過ごす力」と「向かう力」を育む支援論—（浦崎武・武田喜乃恵）、「学齢期の自閉症スペクトラム障害児への関係発達の支援と「自立活動」による教育実践—「ともに楽しむ」体験と

「向かう力ー受けとめる力」を育む「トータル支援」ー（浦崎武・武田喜乃恵）」、実践事例を「集団参加に苦手さのある自閉症スペクトラム障害児への支援ー小学校の特別支援学級における自立活動の授業実践からー（武田喜乃恵）」と題してまとめた。

トータル支援教室の集団支援と学校の協働実践研究として「多動性のある児童の〈向かう力〉を受けとめる支援の実践（瀬底正栄・武田喜乃恵・浦崎武）」、八重山におけるトータル支援教室の集団支援と学校の協働実践研究として「高機能自閉症をもつ小学生男児の6年間の変容過程ートータル支援と学校における重要な他者との関係性の変容ー（本間七瀬・武田喜乃恵・浦崎武）」、海プロジェクトの研究結果として地域協働による海企画について検討した実践研究「トータル支援教室の取り組みを学校で実践するためにーアクティブラーニングとしての「自立活動」の試みー（大城麻紀子・武田喜乃恵・浦崎武）」、学力向上先進地域育成プロジェクトに特別支援教育から発信した「子どもと教職員の〈向かう力〉と〈受け止める力〉が生まれる教育実践ー学校のチャンスを活かしたともに楽しむ取り組みを通してー（崎濱朋子・武田喜乃恵・浦崎武）」を紀要にまとめた。

## トータル支援教室

### 集団支援と教育実践の実践研究

自閉症スペクトラム障害児への関係発達の支援による集団支援と教育実践ー「トータル支援」を通じた「過ごす力」と「向かう力」を育む支援論ー（浦崎武・武田喜乃恵）

学齢期の自閉症スペクトラム障害児への関係発達の支援と「自立活動」による教育実践ー「ともに楽しむ」体験と「向かう力ー受けとめる力」を育む「トータル支援」ー（浦崎武・武田喜乃恵）

集団参加に苦手さのある自閉症スペクトラム障害児への支援ー小学校の特別支援学級における自立活動の授業実践からー（武田喜乃恵）

### 中期計画事業：地域協働プロジェクトー集団支援と学校の協働実践研究

多動性のある児童の〈向かう力〉を受けとめる支援の実践（瀬底正栄・武田喜乃恵・浦崎武）

高機能自閉症をもつ小学年男児の6年間の変容過程ートータル支援と学校における重要な他者との関係性の変容ー（本間七瀬・武田喜乃恵・浦崎武）

### 海プロジェクト：地域協働による実践研究

トータル支援教室の取り組みを学校で実践するためにーアクティブラーニングとしての「自立活動」の試みー（大城麻紀子・武田喜乃恵・浦崎武）

### 学力向上先進地域育成プロジェクト

子どもと教職員の〈向かう力〉と〈受け止める力〉が生まれる教育実践ー学校のチャンスを活かしたともに楽しむ取り組みを通してー（崎濱朋子・武田喜乃恵・浦崎武）